

北勢線に乗って

明けましておめでとうございます。

今年も宜しく願います。

毎年の正月は北勢線に乗ってウォークするのが恒例の行事になっている。

今年は1月3日に馬道駅から楚原駅まで電車に乗り、楚原から阿下喜まで寒い中を歩いて、最後は阿下喜温泉に浸かって温まり、電車で帰った。4月に実施する本番のウォークの下見(試歩)である。

2003年4月に北勢線の経営は近鉄から三岐鉄道に変わった。近鉄が廃線を打ち出したのを、沿線の市町の補助で三岐鉄道が運行することになったのである。行政だけを頼りにせず、民間人としても何かの支援をしたいと考えて、友人たちと「北勢線の魅力を探る会」を立ち上げ、年に2回の沿線ウォークを実施してきた。今年で10周年、今回は20回目になる。

北勢線沿線には有名な名所旧跡があるわけではないけれど、そこには古くからの人々の生活があり、人々が積み上げてきた文化がある。地元の方々の話を聞いて、知られざる「おたから」が豊かであると感じられ、それを広く知ってもらい、北勢線に少しでも関心を持ってほしいと考えた。

沿線はわずか20キロメートル程。まず阿下喜から桑名へ向けての沿線を歩き、次は桑名から阿下喜へ向けて歩いているので、今回は一つの集大成である。

北勢線廃止が発表されるや、沿線にある桑名高校など学校では生徒の通学のために必要不可欠として、存続に向けた活動が行われた。三重県(当時は北川知事)ではバスで代行したいと提案したが、バスでは朝の渋滞が一段とひどくなるので、大反対が起きた。

三岐鉄道に変わってから北勢線は企業努力をして、乗客は上向いてきたけれど、依然として経営は赤字続きである。10年間の補助は若干延長されて、運行は続けられるが、数年先は不透明である。

私の家は馬道駅から桑高へ行く道の近くにあり、平日は北勢線の電車が着く度に通学する桑高生の群れを見かける。多くの生徒が北勢線を利用しているようである。桑高の平成24年度『学校要覧』によれば、全日制の生徒1121人のうち東員町から96人、いなべ市から149人、合計で245人（約21.8%）であり、北勢線利用者は177人（約15.8%）である。かなり高い数字である。桑高生の足として今後も北勢線が存続することを願っている。

北勢線は1914（大正3）年4月に大山田（のち西桑名）駅から楚原駅までの北勢鉄道として開通したので、来年には開通100周年を迎える。レール幅が762ミリメートルで、全国でも数少ない鉄道として生き延びてきた。スピードは出ないが、ゆっくりした電車で、私は「癒しの電車」と評している。

なお、次回の北勢線ウォークは4月7日（日）を予定している。参加ご希望の方は下記のアドレスへお問い合わせ願います。

nishihal23@beige.plala.or.jp

2013.01.04 記